

平成29年度第2回羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

日時 平成29年12月13日(水) 19:00～21:40

場所 羽咋市役所 401会議室

出席者

- 委員長：岩城 和男 (羽咋市社会福祉協議会会長)
- 委員：大屋 英樹 (日本政策金融公庫金沢支店支店長)
- 西 孝志 (七尾公共職業安定所羽咋出張所所長)
- 中村 史人 (羽咋市銀行会：のと共栄信用金庫
七尾商工会議所経営支援課第二課長)
- 松永 義民 (羽咋市商工会理事)
- 出村 太一 (千里浜郵便局長)
- 大門 留美 (公募委員：一般)
- 松山 智明 (羽咋市校長会：余喜小学校校長)
- 安達 吏和 (羽咋市教育委員会教育委員)
- 北山 怜奈 (公募委員：学生)
- 酒井 恵美 (羽咋市青年団協議会直前会長)
- 河島 佳江 (羽咋市各種女性団体連絡協議会会長)
- 欠席委員：大林 浩 (創和テキスタイル株式会社代表取締役社長)
- 澤田 英三郎 (はくい農業協同組合総務部長)
- 新田 聡 (公募委員：一般)
- 若城 はる美 (羽咋市観光協会協会理事)
- 稲垣 賢一 (株式会社北國新聞社羽咋総局長)
- 轟 千栄子 (NPO 法人わくわくネットはくい会長)
- 小塚 泉 (株式会社北陸中日新聞羽咋市局局長)
- 横田 国明 (羽咋市町会長連合会会長)
- 上田 清春 (羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長)
- オブザーバー：青木 哲雄 (石川県中能登総合事務所所長)
- アドバイザー：高山 純一 (国立大学法人金沢大学教授)
- 平子 紘平 (国立大学法人金沢大学特任助教)
- 市側出席者：備後 克則 (総務部長)
- 今井 史也 (産業建設部長)
- 井上 和彦 (教育委員会次長)
- 若狭 義高 (企画財政課長)
- 川口 哲治 (地域整備課長)
- 西井 健一 (秘書室長)

和田 正美 (地域包括ケア推進室長)
奥 利明 (商工観光課長)
金山 幸富 (生涯学習課長)
池田 博明 (環境安全課長)
山本 裕一 (6次産業創生室長)
清水 吉朗 (健康福祉課参事)
吉田 浩一 (総務課参事)
崎田 智之 (6次産業創生室主幹)
衣川 岳 (地域整備課主任)
酒井 智輝 (税務課主事)
倉島穂乃佳 (6次産業創生室主事)
三宅 智大 (商工観光課主事)
中島 一明 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局長補佐)
岡嶋 克己 (羽咋市まち・ひと・しごと創生本部事務局長補佐)

会議傍聴者 : なし

審議事項

1 開会

2 委員長あいさつ

(略)

3 羽咋創生の現状と今後の取組について

【備後総務部長】

資料1 羽咋創生の現状と今後の取組について 参照

資料2 【資料編】羽咋創生の現状と今後の取組について 参照

4 協議事項：がんばる羽咋創生総合戦略の効果検証、評価について

(1) 事務局説明

資料3、資料4 参照

(2) 意見交換

(3) まとめ

(4) 発表

①雇用創出グループ

総じて順調に計画どおりに進んでいるが、2点修正した。

19番「多様なインターンシップによる就労機会の提供」については、◎（取組内容の深化・発展）を○（取組内容継続）に、26番「成長産業分野への投資による地域経済循環システムの構築」についても、○（取組内容の継続）に修正した。

12番「羽咋駅周辺基本構想の策定と賑わいの創出」については、具体的な現状分析もできていない観点から、スピーディに形を決めて進めてほしいという事で△（取組内容の見直し）のままです。

委員からの意見としては、K P Iについて、今後のフォローができるような見直しや新しいK P Iを作ることも必要。また、K P Iに関するもの以外の実績をつかんで、データを取って、分析をしていかなければならない。

とにかく色々なデータを取る作業がベースとして必要で、行政がデータを取って、どう分析して、実際にやったことをフィードバックしてフォローアップしていくかが問われることとなり、今後、大いに期待をしていることでもある。

②移住・交流グループ

1番「U I J ターン希望者の県内企業のマッチング支援」については、U I J ターン希望者を高校生等の新卒者を対象としているが、新たな施策として、今年から市商工会が市内業者の産業展を開催し盛況だったので、高校生等に参加していただき、企業としてもアピールをしてもらうことを検討できないかということで、△（取組内容の見直し）を○（取組内容の継続）に修正した。

2番「移住総合相談窓口による地方移住支援」については、総合評価は○（取組内容の継続）のまま、そのまま継続してほしいが、移住・交流体験施設の件数になっているK P Iを施設の利用者数に変えたら良いのではないかという意見があった。

3番「博物館・歴史文化施設の改修と利活用」、4番「広域連携による周遊観光の促進」による観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大については、総合評価は◎（取組内容の深化・発展）と○（取組内容の継続）で変わらない。

意見としては、市内にある施設の共通のパスポートを作ってほしい。より滞在時間が長くなり、経済効果や活気が出てくると考えられる。二つ目は、市内の小中学生に対し、無料化などの特別な料金設定をしてほしい。学習、好奇心

を高め、将来的には、市に貢献できることがかなり出てくると考えられる。

5番「多様化するニーズに対応した観光メニューの開発」については、このまま施策を続けていってほしいが、サイクリングは日本人よりも外国人の方が好むので、外国語のパンフレット・チラシなどを拡充すれば、利用率が上がるという意見があった。

6番「二次交通の整備」の総合評価は○（取組内容の継続）はそのままです。二次交通の整備については、観光タクシーの利用者からのヒアリングを実施していくということと、JR利用者が多いので駅を中心として、ポスター・チラシを活用したPRすればよいとの意見が出ました。

7番「日本版DMOの推進による「マーケティング」と「観光品質」の向上」の◎（取組内容の深化・発展）については、そのままですが、ボランティア団体である「こんちまん羽咋」は、高齢者の方が大多数を占めているので、新たなボランティアの確保に行政ポイントの活用が良いのではないかという意見があった。

8番「市内宿泊施設利用の促進」、9番「世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力発信、保全活動の推進」、10番「多様なツールを活用した羽咋ファンの拡大」については、そのまま○（取組内容の継続）の評価ですが、10番「多様なツールの活用」については、ユーチューブの活用も積極的にしてほしいという意見があった。

③結婚・出産・子育てグループ

総じて取組については、良い方向ではないかというのが総論でありました。

その中でいくつかピックアップすると、出産・子育ての経済的負担の軽減と支援の4番「三世同居・近居の推進、支援」の三世同居のリフォームについては、費用対効果として、人口増や地域での活躍などに結び付く効果があるということで、総合評価は◎（取組内容の深化・発展）のままとした。

△（取組内容の見直し）の評価の9番「女性の活躍の推進及び交流の場の創出」については、女性の学習会が話題にでてきたが、今は婦人会の組織そのものが停滞してきていて、運用が難しいことがあるとの意見があった。

きめ細やかな教育・学習機会の充実 13番「特別支援教育体制の充実」の特別支援の教育への支援員の配置については、今、学校現場で支援を要する子が増えてきているので、更に充実させてほしいということで、◎（取組内容の深化・発展）に変更した。

同様に 14番「学校図書館の充実」についても、今後非常に大事なことで、運用の仕方、予算を付けることによって、図書館活動、読書活動に有効性があるということで、◎（取組内容の深化・発展）に変更した。

全体としては、色々な取組を行っているが、これらに関係する世代の人たちに知られていないことがあり、広報、アピールが弱いという意見がでた。

羽咋市内だけではなくて、県内で羽咋という名前をどこかで見るだけで、羽咋に関心を持ってもらえる。宣伝面が課題となっているので、今後は、色々な所で羽咋という名前が出る宣伝を事業として生かしていけば、もっと効果が出るとの意見であった。

④地域づくりグループ

概ね総合評価は、記載のとおり継続していくという形で評価しましたが、10番「生ごみ減量化・資源化の推進と適正排出管理」については、新規追加の指標ですので、今後ごみの出し方を市民に周知徹底してもらうことも合わせて継続ということで、△（取組内容の見直し）から○（取組内容の継続）へ変更した。

(5) 各施策の効果検証・評価の決定

各グループで決めた総合評価の結果を諮った結果、異議がなく、各施策の総合評価は、各グループの結果どおり、羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議で認定された。

4 講評

【オブザーバー：石川県中能登総合事務所 青木哲雄 所長】

事務局の評価案から評価が変わった項目がいくつかあり、K P I の見直しについてのご意見もあるなど、委員の皆様の羽咋市に対する熱い想いが伝わってまいりました。

今回の会議の進め方については、事前に事務局から委員の皆様へ資料を配布し意見を募り、事務局が評価案を考え、各委員からの質問に対する説明がされる手法により、委員の皆様に内容の確認をしていただく形成の場として、非常に有意義だったと思います。

ただ、グループによっては、検討する項目や質問内容が多いグループがあり、2時間の意見交換では、タイトだった面があったと思いますので、事務局は、来年以降の対応の検討をお願いします。

谷本知事は、常々、予算というのは、どのような施策を展開するかを県民の皆様が発するメッセージだと申しております。

今日決定された評価をどのように活かしていくかは、具体的な施策の裏付けとなる予算にどのように反映していくかが、非常に大事であります。

計画期間が5年ありますので、来年度の予算というのは、計画期間中の仕上げに向けた予算という位置づけも持っております。

市当局におかれましては、今日の委員の皆様の見解や評価を噛み砕いていただき、来年度の予算にしっかりと反映していただきたいと思っております。

【アドバイザー：国立大学法人金沢大学 高山純一 教授】

羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略も3年目となるということで、今の状況がどういう形で動いているのかどうかを、この場で4つの役割で評価されましたが、ざっと見た感じ、大学の評価で言えば、A評価ではないかと思えます。

×は無いけど、△も少しあり、○が多く、出来れば全て◎になるように努力が必要かと思えます。これは、役所だけでは絶対にできない話で、役所ができるのは、きっかけ作りやあくまで支援で、実行するのは市民や地元の企業になります。

市民全員が理解して、各々の立場で努力されるのが良く、今のところは、うまくいきつつありますが、成果はこれからで、順調に上昇気流に乗れるかどうかは、市民や地元企業の頑張りがポイントだと考えます。

色々とKPIがありますが、後で見直すことも必要ではありますが、国への申請の関係等でKPIを変えるのは難しいと思えますが、新たに追加することは可能かもしれません。

例えば、仕事を作るための企業誘致は非常に大事だが、5年間で5社や10社の企業誘致は難しいことです。ならば、自分たちで作れば良いことで、スモールビジネスで十分で、その一つのきっかけが道の駅だと思えます。道の駅だけで無くても、自前で起業する、起業家を育てる、これまで細々としていた生業を拡大するなどを、どう考えていくかが一つだと考えます。

もう一つは、個人で農業を起業した場合に、作って道の駅で売るだけではまだ弱いので、どうするかというと、まさに六次産業化を推進し、付加価値をどうつけるかということだと思えます。ぜひ地元の企業あるいは、地元が無理なら借りてきて地元で根付かせるかになるが、長い目で見れば、地元で根付くことは十分可能性はありますので、ぜひ、地域で頑張ってもらいたいと思えます。

人の流れをいかに作るかについて一番大事だと思うのは、転出の抑制です。大学進学時や就職時に転出する人が多いので、地元の大学への進学や地元の企業への就職が増えるよう考えてほしいと思えます。県内には、大企業は少ないが、ある分野で全国的シェアが高いトップ企業が多くあります。しかし、地元の学生にはあまり知られていないので、羽咋だけでなく、金沢や石川のPRも含めて、地元の若い人達にPRすることが大事だと思えます。

もちろん、死亡率を抑えるために、若いうちから食生活、生活習慣の改善などを行う必要性などのPRも大事なことだと思えます。

地元にも、小さな企業が沢山あるが、今問題となっているのは、事業の継続性、継承をどうやっていくかということだと思います。何らかの形で調査を行い、今後どうな

るのかをこの場で議論しておいた方が良いと思っています。

事業が継承されなくなると、地域で回っている経済がストップしてしまいますので、何とか事業を継続できる形を取らないといけないと思います。

先ほど、施策評価のために、色々なデータを集めて評価した方が良いという意見があったが、そのとおりだと思っています。データを集めるのは、非常に難しく、時間とお金もかかるが、大事なことだと思います。

地域内でのお金の回りが、どういうふうになるのかを、きちんととらえることが大事です。ぜひ、市町村間で、お金がどういうふうに戻って、どこにどう吸い込まれるのか、あるいは、どこに投資したお金が、どういうふうに生きて回るのかというようなことを、市町村単位でデータ分析をしていただきたいと思っています。

最後に、何よりも大事なものは、先ほどの意見にもあったように、羽咋を知ってもらうことです。お金をかければ、テレビや新聞でいくらでも出来ることですが、お金をかけずに、メディアをうまく使う工夫を、地元で色々な形でしていただき、羽咋をPRしていただきたいと思っています。

5 その他（連絡連絡等）

（略）

6 閉会